



町民文芸

只見短歌会

十月詠草

大塚栄一

指導

娘の許でお袋の味作らむとりハビリ兼ねて調理場に立つ

吉津 政枝

体調のややに戻れば幾日も裏口に置きし豆穀片す

皆川 恒子

稲の初噛みて実入りを確むる夫は表情を変へずうなづく

目黒 富子

独り居の媪寄り来て孫の赤き自転車庭にあるを羨しむ

古川 英子

今日もまた日の暮れ早きを言ひながら孫と二人の夕餉をすます

馬場 八智

藍深き秋茄子嫁にくれるなど言ひし昔を思ひもぎたり

齊藤ちひろ

大型と恐れし台風被害なく川の向うに大き虹立つ

渡部ゆき子

見間違ひ礼する程に良く出来し案山子立ちをり熟れ初めし田に

五十嵐夏美

つかの間の紅葉なれど峡深き町に車の寄りて賑はふ

渡部ヨリ子

来春に備へて枯葉除きつつ店員たちは鉢植囲ふ

新国 洋子

只見俳句会

十一月例会

目黒十一

指導

赤とんぼ数少なくて日本晴

都

尼寺の風吹き変わる葛の花

隆介

駆けつけて切れし電話や秋の雨

娘来て窓開け放つ冬日向

郁子

邦夫

コンバイン汚れ落して豊の秋

ケールカー終点に着くナナカマド裏庭に陽射したっぷり小豆干す

洋子

笑羊

風来たり又銀色のさんま焼く

プロペラに刃物の光り冬立てり

軽トラの後先で舞う落葉かな

解体の戦車平らに冬紅葉

修一

リウコ

秋雨や茶道具揃え友を待つ

豆落とす音あちこちに日の高し

紅葉狩の身に一息の露天風呂

六十里越えの車や初紅葉

一灯

康女

秋高し単車一群音立てて

山よりの風のもたらす菊日和

流星や亀岡山を狙うかに

犬連れし少女駆け出す草紅葉

邦男

一穂

ひと匙の塩振り掛くる衣被

子の温み背ナやはらかに鳥渡る

童心に帰るひと時紅葉狩り

秋冷や空に流星飛び交いつ

又壺歩

恒夫

駅伝に声援送る秋日和

草紅葉「四十八川」ちふを越え

秋声や犬抱く少女頬ずりす

朝寒や鎌に砥石のあたる音

吉児

礼

栗鼠渡る枝のたわみや秋の声

晩秋や寝ねつつ肩の力抜く

二の腕に秋の気配や秣刈る

雨音のこさざみとなり雪予報